

サンケイリビング新聞掲載されました。 兵庫県下クリニック初の大腸カプセル内視鏡導入

大腸がんは早期の内視鏡検査がポイント 院長・日浦祐一郎先生に聞きました

ひうらクリニック



ひうらクリニック院長・日浦祐一郎先生
【プロフィール】

熊本大学医学部卒業。大阪大学医学部附属病院消化器外科教室入局。国立病院機構大阪医療センター、西宮市立中央病院勤務。大阪大学大学院医学研究科卒業。医学博士。市立伊丹病院勤務を経て、2012年「ひうらクリニック」開設

日本人の死亡原因の1位は「がん」。中でも、部位別にみた死亡率では、大腸がんが男性では3位、女性では1位となっています（平成26年厚生労働省・人口動態統計より）。手遅れになる前に考えたい、大腸がん検診の重要性について、ひうらクリニック院長・日浦祐一郎先生に聞きました。

わが国では、年間約8期に見つかれば、治る確率が新たに大腸がんにかかっている、食生活の欧米化などが、患者数増加の原因と考えられています。「大腸がんの初期は、先端に高性能カメラは症状が出てく、進行すると下痢・便秘などの排便異常や血便が見受けられます。大腸がんは早

一般的な大腸の検査でこの検査のメリット。日帰りで実施しているところもありですが、医療機関により、入院して検査する場合もあります。このように、内視鏡検査は早期発見のポイントとなります。水と一緒に飲みこみます。上下にカメラが内蔵されているので、1秒間に最大35枚の撮影が可能です。受診者が携帯する検査装置は、医師はデータを送信して、検査結果の説明を行います。カプセルは自然に排出され、所要時間は

このように、内視鏡検査は早期発見のポイントとなります。水と一緒に飲みこみます。上下にカメラが内蔵されているので、1秒間に最大35枚の撮影が可能です。受診者が携帯する検査装置は、医師はデータを送信して、検査結果の説明を行います。カプセルは自然に排出され、所要時間は

カプセル内視鏡の登場で より受けやすい検査に

の検査を受けていないの「怖い」「恥が美情。『もともと痔(じ)』が「あから」などの理由で、検査を回避している人が多いようですが、女

女性の死因1位でありながら、検診の受診率が低い大腸がん。より早く検査と検出が、今年1月に保険適用となった、大腸カプセル内視鏡検査です。「長さ3・1cm、直径1・1cmのカプセル型で、水と一緒に飲みこみます。上下にカメラが内蔵されているので、1秒間に最大35枚の撮影が可能です。受診者が携帯する検査装置は、医師はデータを送信して、検査結果の説明を行います。カプセルは自然に排出され、所要時間は

こんな症状があるなら検査を

- よく便秘になる。ここ最近便秘が続いている
- 最近、下痢が多い
- 下痢と便秘を繰り返す
- 便が細くなった気がする。太い便が出ない
- 時々、お腹が痛い
- よくお腹がはる感じがする
- 血便がある。便に血が付いている
- お尻を拭くと、紙に血が付いてくる
- 便潜血検査で陽性が1回以上出た
- 健康診断で貧血と言われた
- 40歳以上になった
- 血縁者(3親等以内)に胃や大腸がん患者がいる



飲むだけで検査できるカプセル内視鏡

の検査のメリットです。「大腸がんは、食物繊維を多く含む食品を取り入れるなどの生活の改善とともに、早期の検査が